

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

- 強風や悪天候時は、作業を行わないでください。思わぬケガにつながるおそれがあります。
- 板金切欠き部や鋭利な端面を扱う際には保護具を着用してください。板金の鋭利な部分で手を切るおそれがあります。
- ※雨漏りや水の浸入の原因になるおそれがありますので、下記事項をお守りください。
- 取付け可能な屋根勾配は、22～31°（4.0～6.0寸勾配）です。
- 本文中のシーリング指示箇所には、コーキング材を充てんし、防水処理を行なってください。

■取付け上のお願い

- 本製品は、屋根水平棟部に取付けます。B型は、和瓦・五寸丸の丸瓦（ヒモ丸瓦・素瓦）専用です。屋根仕上げが、金属板・化粧スレートの場合は、A型を使用してください。
- 有償部品で、下地ユニットを用意しています。
- 施工完了後、棟換気孔本体にガタツキがないか、確認してください。

■取付け順序

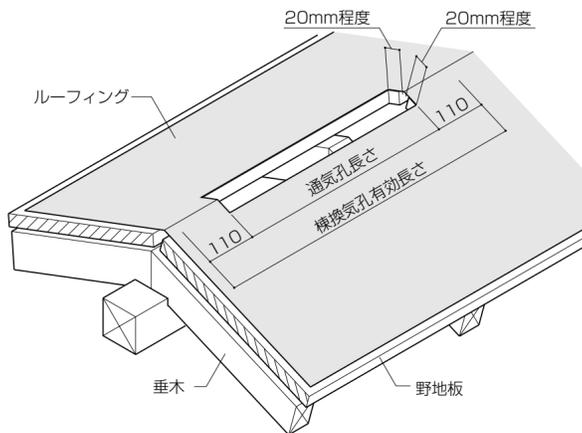
1 開口部の製作

①野地板の棟部に下表を参考に通気孔を設けてください。

呼称寸法	棟換気孔有効長さ	通気孔長さ
13600	1325mm	1105mm
18100	1855mm	1635mm

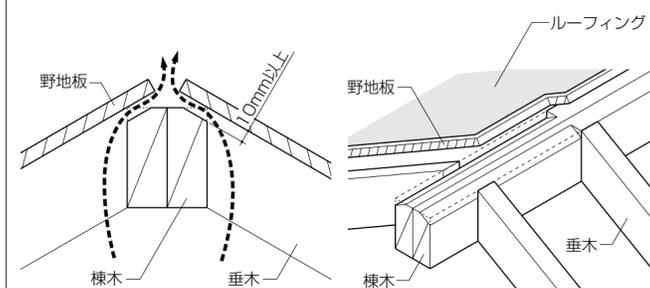
②野地板を電動ノコギリなどで通気孔の大きさに切欠きます。

③ルーフィングを張付けた後、棟部の野地板切欠き部に合わせてカッターナイフなどで通気孔の大きさに切取ります。



■枠組壁工法（2×4工法）の場合

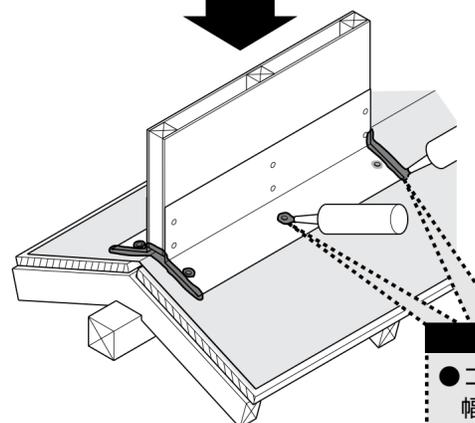
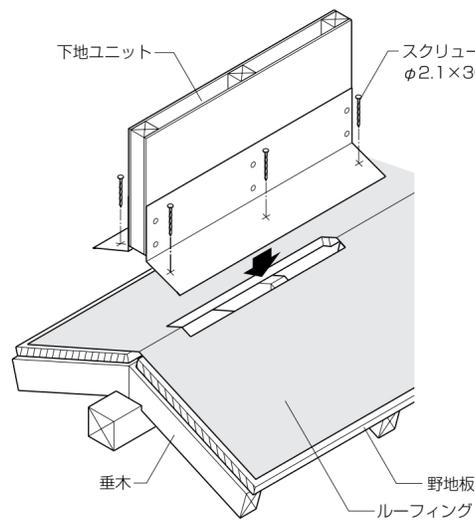
●棟木の上両端部を切欠いて通気孔を作ります。



2 下地ユニットの取付け

①下地ユニットは、通気孔（棟芯）の中心に合わせて、両端末も均等になるようにして、垂木又は野地板に釘止めします。

②下地ユニットの釘止めが完成したら、下地ユニットの端部・釘・ねじの頭部などを、シリコン系コーキング材で防水処理をします。



▲注意

●コーキング材は、幅10mm、高さ3mm以上充てんしてください。

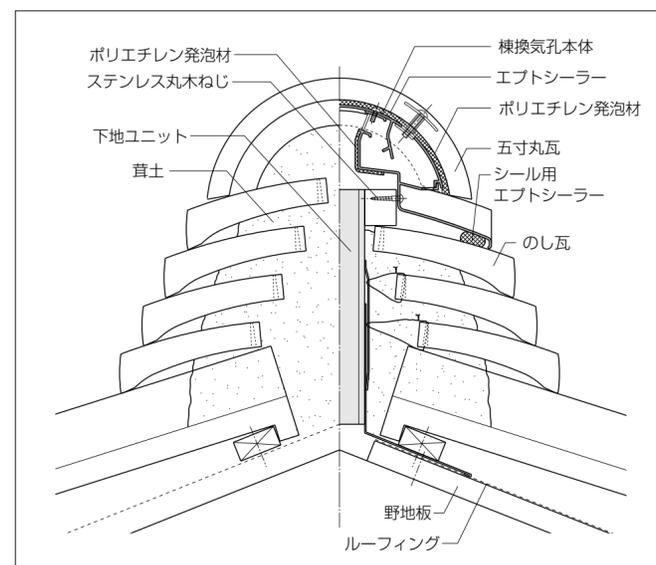
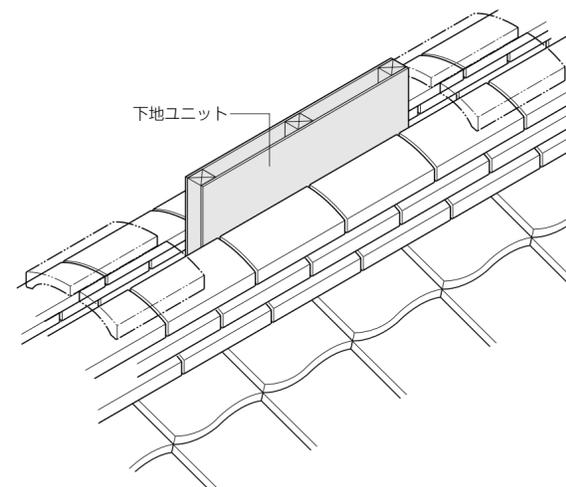
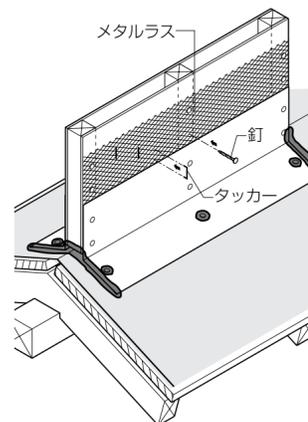
3 屋根材の施工（のし瓦ぶきの場合）

①屋根材の施工（のし瓦ぶき）をする前に、のし瓦を緊結するメタルラスを下地ユニットに釘（現地調達）とタッカーを併用して取付けます。（タッカーのみでの取付けはしないでください。）

※メタルラスの打付け位置は、現場に合わせて決めてください。（一般的に多い五段積みの場合は、下地ユニットの水切り板金上端よりメタルラスを取付けると良い。）

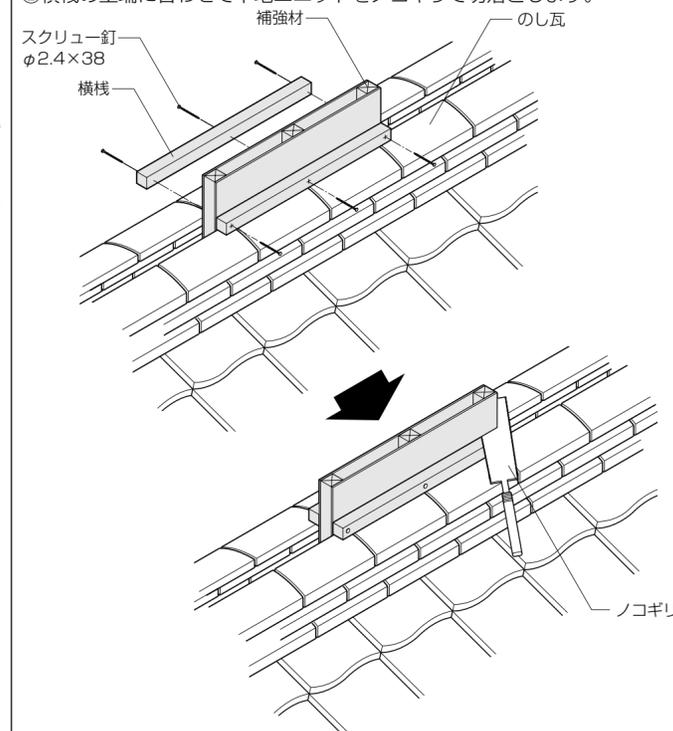
②棟換気孔取付け部ののし瓦は、仕上げ段数より1段低くなりますので、のし瓦の施工は、仕上げ段の手前までとします。

※他の部分の屋根材は、従来の方法で施工してください。下地ユニット部の、のし瓦の緊結は、すでに取付けたメタルラスを利用して行います。



4 下地ユニットの横棧の取付け

①横棧を下地ユニットの補強材に釘打ちします。
②横棧の上端に合わせて下地ユニットをノコギリで切落とします。



5 棟換気孔本体の取付け

①本体は、下地ユニットにかぶせるようにして納め、上からしっかりと押さえながら、丸木ねじφ3.1×20で、本体側面から下地ユニットの横棧に取付けます。

②本体に合わせて、残りののし瓦を取付けます。

③丸瓦は本体の端部に張付けた気密シーラーを、ヒモ側でおおうようにして施工します。

※素丸瓦を使用する場合は、気密シーラーをはがして本体に差込むようにして施工してください。

